重点分野３　睡眠・休養・こころの健康

事業名	27	フレイル予防事業（こころの健康）	所管課	地域包括支援課
内容	フレイル予防を目的として運動や趣味の活動などを行う団体活動に対し，健康アプリでのポイントを付与するもの。（令和６年度より開始）			
期待する効果	健康アプリでのポイント付与により，主に高齢期の社会参加を促進し，フレイルを予防する。			

関係課 関係機関 （民間企業含む）	各市民活動団体，地域包括支援センター，社会福祉協議会等	ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
				△	○

実績値 及び 次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① 健康アプリインストール者数	↑		―	25,795人	
	② 健康アプリでのフレイル予防活動ポイント付与回数	↑		―	288,870回	
	③ フレイル予防活動登録団体数	↑		―	677団体	

評価	令和７年度より健康アプリの配信を開始。旧制度のフレイル予防ポイント制度からの移行を促進しながら，普及を進めることができた。令和８年度においても，更なる利用者，フレイル予防活動，フレイル予防活動登録団体数の増加につながるよう働きかけていく。
今後の方向性	ポイント付与により，新規の活動への参加や活動継続の後押しとなるよう，健康アプリについて周知を強化し，インストール者数を増加させるとともに，活用促進を図っていく。

事業名	28	健康づくり普及啓発事業（こころの健康）	所管課	健康増進課
内容	イベント，依頼の健康教育，出前講座等の中でメンタルヘルスに関する啓発や出前講座を実施			
期待する効果	十分な休養や不安や悩み，ストレスへの適切な対処方法を知ることができる。			

関係課 関係機関 （民間企業含む）	柏市民健康づくり推進員連絡協議会，沼南支所，図書館	ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
			○	○	○

実績値 及び 次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① 啓発実施者数（休養・こころの健康）	↑	192人	169人	405人	
	②					
	③					

評価	図書館や沼南支所ロビーにてメンタルヘルスや睡眠に関するハンドブックを配付，依頼の健康教育を１回実施した。啓発実施者は増加しているが，啓発回数としては少ない。対象や啓発内容を絞り広く周知していく必要がある。
今後の方向性	今年度は睡眠に重点テーマをしぼり，啓発を実施していく。生活習慣病予防等の他テーマの健康教育においても話題を取り入れ，啓発機会の確保を図っていく。

重点分野３　睡眠・休養・こころの健康

事業名	29	こころの健康に関する普及啓発	所管課	保健予防課			
内容	一般市民を対象とし，精神疾患等の正しい知識の啓発をおこなうために，講演会や講義を行う。						
期待する効果	より多くの市民が，こころの健康や精神疾患に関する理解を深め，正しい知識を学ぶことができる。						
関係課 関係機関 （民間企業含む）	柏市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業受託事業所		ライフステージ		乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
					思春期	○	○
実績値 及び 次年度指標		項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	①	こころの健康出前講座・市民講座参加者数	↑	１６９人	２４２人	２５２人	
	②						
	③						
評価	各講座の参加者数は増加傾向にあり，こころの健康に関する市民の意識の高さが伺える。 Ｒ６年度より，民生委員児童委員協議会へ講座の周知を行い，より多くの市民へ啓発がおこなえるよう働きかけをおこなった。 Ｒ７年度より，市民向けに心のサポーター養成研修を実施し，メンタルヘルスの理解促進，心の不調に悩む人が話し易い環境作りに取組んでいる。						
今後の方向性	引き続き，市民への普及啓発に取り組む。また，精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業として，民間事業所と協働した普及啓発を行っていく。						

事業名	30	老人福祉センターの管理運営	所管課	高齢者支援課			
内容	高齢者がお互いの親睦を図り，各種の相談や教養の向上，レクリエーション，介護予防に役立つ講座などを実施し，高齢者の健康で豊かな生活を支援します。						
期待する効果	利用しやすい環境づくりを行い，高齢者の健康増進を図る						
関係課 関係機関 （民間企業含む）	柏市社会福祉協議会		ライフステージ		乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
							○
実績値 及び 次年度指標		項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	①	新規利用登録者数	↑	－	219	221	
	②						
	③						
評価	指定管理者の持ち味である地域づくりを活用し，利用者が安心して通えるような施設管理や事業展開を推進してきた。また，事業として他機関と連携して介護予防講座を実施した。						
今後の方向性	令和８年度は，多世代施設への転換に向けて例年通り，センターまつりや介護予防講座実施の他，eスポーツを取り入れた講座の実施を検討しており，既存利用者の興味を引くとともに新規利用者の獲得も図っていく。						

事業名	31 こころの健康相談	所管課	保健予防課
内容	精神科医や職員によるこころの健康に関する相談		
期待する効果	精神的な不調等を抱えた本人や家族等に対する相談を行い，精神疾患等の早期発見や必要な支援につなげることができる。関係機関と連携した支援をおこなうことができる。		

関係課 関係機関 （民間企業含む）	精神科医療機関	ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
			思春期	○	○

実績値 及び 次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① 精神科医による相談件数	↓	70件	66件	64件	
	② 職員による相談（面談，訪問，電話）	↓	9,459件	8,966件	8,047件	
	③					

評価	精神保健に関する課題は，複雑多様化しており、対応に困難を抱えている事例も多くあり，関係機関との緊密な連携を行っている。
今後の方向性	複雑多様化する相談者のニーズに対応できるよう，引き続き関係機関と緊密に連携を図り対応していく。

事業名	32 ブックスタート事業	所管課	子育て支援課
内容	1歳6か月児健康診査を受診する親子に対し，市民ボランティアが読み聞かせを行いながら絵本を手渡す事業		
期待する効果	・読み聞かせボランティアによる絵本を通じた言葉かけやふれあいにより，親子の心安らぐ時間をつくるとともに，子どもの豊かな心と親子の愛着形成を育む。 ・地域社会における子育て支援活動を推進するとともに，読み聞かせボランティアの地域活動における交流の機会を創出する。		

関係課 関係機関 （民間企業含む）	図書館，母子保健課 柏市ふれあいブックスタートの会	ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
			○	○	○

実績値 及び 次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① ボランティア参加者数	―	210	210	197	
	②					
	③					

評価	ブックスタート事業の理解を深めるため，ボランティア全体研修会を開催した。コロナ禍での読み聞かせ休止期間の影響で，現在においても読み聞かせボランティアの不足が課題となっている。読み聞かせボランティアによる読み聞かせが開催できない日においては，配付式での実施も行いながら事業の運営を行った。
今後の方向性	引き続き，コロナ禍で退会・休会により減少したボランティアの募集や研修等を行いながら，安定的に事業継続していく方法を検討する。

重点分野３　睡眠・休養・こころの健康

事業名	33	地域子育て支援拠点事業	所管課	子育て支援課・保育運営課
内容	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し，子育てについての相談，情報の提供，助言その他の援助を行う事業（児童福祉法第６条の３第６項に規定される事業）			
期待する効果	子育て中の親子の孤立や子育てに対する不安の減少。			

関係課 関係機関 （民間企業含む）		ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
			○		

実績値 及び 次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① 【子育て支援課】 地域子育て支援拠点事業　延利用者数	↑	128,765	147,858	143,822	
	② 【保育運営課】 地域子育て支援拠点事業　延利用者数	↑	888	1,860	2,091	
	③					

評価	【子育て支援課】 乳幼児親子の交流の場として機能。「子育て支援施設・相談情報」のチラシを作成し，子育て支援拠点に関する情報及び相談先の周知を行った。 【保育運営課】 令和６年度より，リピートの利用者が多く，親同士のコミュニティーの場となってきている。 令和７年度より，予約制を廃止し，自由来館制としたことで，利用者数はさらに増加傾向にある。
今後の方向性	【子育て支援課】 令和8年度より「遊びの広場」を拠点化し，令和9年度には（仮称）子ども・若者相談センター内で「はぐはぐひろば」を再開予定。引き続き，乳幼児親子が利用しやすい場となるよう環境を整えるとともに，事業の充実を図る。 【保育運営課】 今後も利用者数を増やしていけるようにする。また，気軽に相談できる雰囲気づくり及び親同士でも悩みを打ち明けられるような関係づくりを目指す。

事業名	34	妊娠届出受理と母子健康手帳交付事業（睡眠・休養・こころ）	所管課	母子保健課
内容	・妊娠届出受理時，専門職が面談をして，こころの健康チェックを実施。気分の落ち込みや不安の有無を確認し，早期に支援を開始する。 ・妊娠届出受理の面談時に飲酒状況を確認。飲酒による健康リスクの啓発を行い，必要に応じ支援に繋いでいる。			
期待する効果	・妊娠や出産への不安が高い方やうつ病の疑いのある方に対し，早期発見・早期支援ができる。 ・妊娠期から飲酒による健康リスクの啓発を行い，早期支援ができる。			

関係課 関係機関 （民間企業含む）	庁内関係各課 産科医療機関等	ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
			○	○	

実績値 及び 次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① 母子健康手帳交付時の専門職の面談率	維持	100%	100%	100%	100%
	② 妊娠届出時の妊婦の飲酒率	減	0.30%	0.40%	0.40%	0.00%

評価	・妊娠届出受理時に専門職（保健師，助産師等）による全数面接を実施。書面上では把握出来ない気分の落ち込みや不安の有無等を面談にて確認。要支援家庭を早期に把握し，必要な支援に繋げた。 ・妊婦等包括相談支援を含めた妊婦のための支援給付金と連携し，切れ目のない支援体制の強化に取り組んだ。 ・産科医療機関や精神科医療機関と連携を図り，メンタルヘルスの問題を抱える妊産婦の支援を強化した。 妊娠届出時点での飲酒状況を確認し，飲酒による妊婦および胎児への健康リスクをリーフレット等を活用し，説明と啓発を実施。
今後の方向性	・市内４か所の妊娠子育て相談窓口（TeToTe，柏市役所，ウェルネス柏，沼南支所）にて，専門職（保健師，助産師等）による全数面接の継続。 ・周産期におけるメンタルヘルスに関して，関係機関との連携を強化。 ・市内４か所の妊娠子育て相談窓口による，専門職による全数面接にて，飲酒による健康リスクの啓発を継続。

重点分野３　睡眠・休養・こころの健康

事業名	35	乳児家庭全戸訪問事業	所管課	母子保健課
内容	乳児の全家庭を保健師等が訪問することで，子育て世帯の孤立化を防ぎ，乳児の健全な育成環境を確保する。産後うつ早期発見スクリーニング指標や，赤ちゃんへの気持ち質問票のチェックリストを用い，育児ストレスが高いと思われる方へ訪問等の継続支援を実施。			
期待する効果	高い育児ストレスや気持ちの落ち込み等，育児をする上で困難がある方を，早期の支援につなぐことができる。			
関係課 関係機関 （民間企業含む）	庁内関係各課 産科医療機関等	ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
			○	○	

実績値及び次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① 乳児家庭全戸訪問事業面談率	増	97.5%	99.0%	99.50%	99%（見込）
	②					

評価	・保健師，助産師による新生児訪問は，子育て世帯の孤立化を防ぎ，育児ストレスが高い方への支援として，早期発見，早期支援につなげることができている。 ・令和7年度より，母子健康手帳別冊から出生連絡票ハガキを無くし，QRコードの電子申請に一本化した。 ・当市では転出入が多く，転入後の母子の早期支援にもつながっている。
今後の方向性	・乳児家庭全戸訪問事業を通じて，育児上の困難がある方をすみやかに支援につなげることができるよう，母子相談担当や産後ケア事業担当と情報共有を行い，連携を強化する。

事業名	36	１歳６か月児健康診査・３歳児健康診査（睡眠・休養・こころ）	所管課	母子保健課
内容	・身体計測，歯科診察・歯科相談，育児相談，栄養相談，小児科診察，発達相談等を通して児の心身ともに健康な成長と保護者の育児を支援する。			
期待する効果	・児の心身の異常の早期発見，早期支援 ・保護者の育児負担，育児不安への支援による虐待予防			
関係課 関係機関 （民間企業含む）	柏市医師会，柏歯科医師会，こども発達センター	ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
			○		

実績値及び次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① １歳６か月児健康診査受診率	増	97.60%	93.50%	93.10%	94.00%
	② ３歳児健康診査受診率	増	95.30%	90.10%	91.00%	92.00%
	③					

評価	・１歳６か月児健康診査受診率はほぼ横ばい，３歳児健康診査受診率は微増だが，対象者のうち他機関や他市区町村で受診している児や４月以降（年度を越えた受診期間内）に受診した児を含めると，受診率は横ばいとなっている。 ・育児相談にて保護者の育児負担感や不安がある場合には，話を傾聴し利用可能なサービスの紹介や地域担当保健師からの支援を提案している。また，不適切なかかわりが見られた際には対応を助言し，その後の実践状況や今後の対応を地域担当保健師とともに考えることを提案することで育てにくさ軽減や虐待予防に努めている。 ・健診にて要精密検査となった児で２か月後まで受診がない児に対して，電話連絡し受診勧奨を実施，発達に課題がある児に対しても丁寧に対応し，現在検査が難しい場合でも一度受診し，その後の方針を医師と相談することを勧めている。
今後の方向性	・受診率向上のための受診勧奨はがき送付の継続 ・育児相談の精度管理(虐待の早期発見のためのリスクアセスメント用紙の活用，報告フローにもとづいた緊急時の対応　等)

事業名	37 産後ケア事業	所管課	母子保健課
内容	産後も安心して子育てが出来るよう，宿泊，訪問または，通所サービスを利用して，母親の心身のケアや育児サポート（育児相談，沐浴・授乳等の育児指導等）を行う		
期待する効果	・産後の母の心身の回復と，産後うつや育児ストレスの予防，軽減 ・専門職による育児指導等による育児手技の獲得 ・育児を担う母を含めた家族の負担軽減		
関係課 関係機関 （民間企業含む）	産科医療機関等	ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期：○ 青壮年期：○ 高齢期：

実績値及び次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① 産後ケア事業申請数	増	248	326	484	747（見込み）
	② 産後ケア実利用者数	増		287	342	478（見込み）
	③					

評価	・産後ケア契約施設拡大のため，令和７年度中に施設見学を実施し，令和８年度契約施設を増やすことが出来た ・事務作業の効率化を図るため，利用者情報の管理方法を変更した ・EPDS高値・問10に加点，精神疾患の既往等の支援が必要な対象について，施設との情報共有を実施した
今後の方向性	・産後ケア申請者が全員利用できる体制を整える ・産後ケア契約施設の拡充 ・事務作業の効率化

事業名	38 生涯学習推進事業の地域展開・生涯学習事業自主活動・地域活動支援講座	所管課	生涯学習課・中央公民館
内容	誰もが健康でより充実した豊かな人生を送るため地域の方々と交流を深め，互いに学ぶことにより，良好な人間関係を築き社会的能力を高め，めまぐるしく移り変わる社会に順応できる能力を養う。		
期待する効果	社会活動に参加している人の増加		
関係課 関係機関 （民間企業含む）	なし	ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期： 青壮年期：○ 高齢期：○

実績値及び次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① 実施回数			27	11	
	② 参加者数			379	277	
	③					

評価	自主活動等を通して，地域の方々と交流を深め互いに学ぶことにより，めまぐるしく移り変わる社会に順応できる能力を養うことを目的として事業実施を展開した。 次年度以降も，良好な人間関係を築き社会的能力を高めることができるよう，講座の充実を図る。
今後の方向性	引き続き，社会活動に参加を促す講座を組み立て進めていく。

事業名	39	不登校児童生徒の支援事業	所管課	児童生徒課			
内容	市内の小中学校で，何らかの要因による不登校状態の児童生徒を対象に行う支援事業。本人の自立を促すとともに，学びの保障と居場所づくりを目指し，学習支援や訪問活動等を行っている。						
期待する効果	・不登校児童生徒の学習保障。 ・家庭と学校以外の居場所の確保。						
関係課 関係機関 （民間企業含む）	－		ライフステージ		乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
					○		
実績値 及び 次年度指標		項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	①	教育支援センター利用者	↓	177人	175人	187人	
	②	教育相談件数（電話）	↓	3,628件	3,046件	3,221件	
	③	教育相談件数（来室・訪問等）	↑	1.529件	1,533件	1,642件	
	④	教育相談件数（家庭訪問）	↓	877件	850件	753件	
評価	市内小中学生の不登校数は，ここ数年高止まりしている状況である。 市内に５カ所ある教育支援センターは，不登校児童生徒にとって学習をしたり友達とかかわったりすることで，安心して過ごすことができる居場所としての機能を果たしている。また，家庭訪問事業は，引きこもりがちの児童生徒や保護者にとって，相談をしたり関わったりできる貴重な機会となっている。 今後も周知を図り，関係機関とまだつながりを持てずにいる児童生徒や保護者とかかわっていき，社会的な自立を目指すための支援を行っていく。						
今後の方向性	教育相談機能・学習支援など，より効果的な場所となるような運営に努める。また，SSWやSCとの連携を密にし，誰一人取り残さない支援を継続していく。						

事業名	40	自殺予防の大切さの啓発と周知	所管課	福祉政策課			
内容	自殺は誰にでも起こり得る危機であることへの理解を深め，自身や身近な人の心の不調に気づく役割等について関心が深まるよう啓発する。						
期待する効果	自殺者数の減少						
関係課 関係機関 （民間企業含む）	なし		ライフステージ		乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
					○	○	○
実績値 及び 次年度指標		項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	①	ゲートキーパー養成研修等の参加者数	↑	224	278	249	300
	②						
	③						
評価	広く市民を対象に，悩んでいる方に気づき，声を掛け，話を聞いて必要な支援につなげることのできるゲートキーパーを養成する研修を行う。						
今後の方向性	誰かに援助を求めることが適切であるという理解の促進や，自殺に対する誤った認識及び偏見を払拭し，自分の周りにいるかもしれない自殺を考えている人の存在に気づくことが大切であるため，より一層の普及啓発を実施する。						